「話のたねのテーブル」より

続・オオオナモミの大繁殖

岩瀬　徹

本誌43巻10号(平成22年1月発行)58ページで,「話のたねのテーブル」より『オオオナモミの大繁殖』と題して，2009年秋に 観察したオオオナモミの大繁殖の様子を紹介した。場所は，千葉県八千代市の新川沿いに広がる休耕地である。先頃，その後の状況を見てきたので，記したい。

昨年，秋の終わりにオオオナモミは実が熟し，茎は枯れかけていた。その後，全面に刈り取りが行なわれた。広い面積なので，かなりの労力を要したことであろう。

冬に行ってみるとオオオナモミはきれいに除去されていたが，地面には牧草(ネズミムギ類)が芽生え，緑に被っていた。それが春には密生した群落になった。地中にあった種子か，あるいは残っていた地下部からの成長であろう。その状況も，その前年と同様である。

牧草によってオオオナモミが抑えられたかというと，そうではなかった。夏の初めにはネズミムギの下にはオオオナモミの芽生えがたくさん現れた。そしてこの秋，またまた壮観ともいえる大群生となった。きわめて過密，高さは1.2mから1.5mほど。葉が大きいので群落内は暗く，他の草はほとんど見られない。わすかに，ホソアオゲイトウが抜きんでているところがある程度である。

この後また，刈り取りが行なわれるのかも知れないが，同じことの繰り返しで，オオオナモミ抑制にはならないであろう。せっかくの刈る労力が効果をもたらさない。せめて，結実前の9月前半までに刈り取りを行ない，それを3～4年継続すれば，土壌中の種子が枯渇してくるのではないか。雑草の生活を知り，抑制の方法を考えることが必要であろう。

刈り取りが，どこでどんな計画で行なわれているのかを知り，提案できればと思っている。

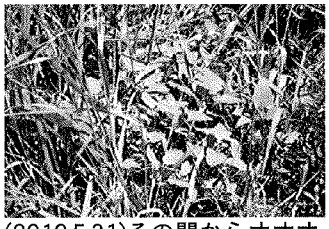
(話のたねのテーブルNo.110より転載)

(2009.11.3)オオオナモミの実が熟し，茎は枯れかけている

(2010.1.17)全面に刈り取りがされた

(2010.4.4)地面にはネズミムギ類が伸び出している

(2010.5.31)ネズミムギ類が成長し密な群落となる



(2010.5.31)その間からオオオナモミが伸び出している

(2010.9.17)再びオオオナモミの大群落となった